

製品名: TGFβ RII (リン酸化Ser225) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05549**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	75kDa

抗原情報

遺伝子名	TGFBR2
別名	TGFBR2; TGF-beta receptor type-2; TGFR-2; TGF-beta type II receptor; Transforming growth factor-beta receptor type II; TGF-beta receptor type II; TbetaR-II
遺伝子 ID	7048.0
SwissProt ID	P37173
免疫原	抗血清は、ヒト TGFβ 受容体 II の Ser225/250 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 191-240

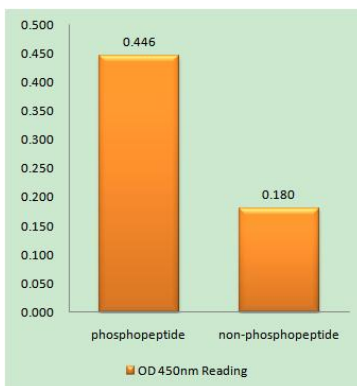
背景

この遺伝子は、Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリーおよび TGFβ 受容体サブファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は膜貫通タンパク質で、タンパク質キナーゼドメインを有し、別の受容体タンパク質とヘテロ二量体複合体を形成し、TGF-β に結合します。この受容体/リガンド複合体はタンパク質をリン酸化した後、核内に移行し、細胞増殖に関連する遺伝子群の転写を制御します。この遺伝子の変異は、マルファン症候群、ロイス・ダイツ大動脈瘤症候群、および様々な腫瘍の発生と関連付けられています。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが特徴付けられています。 [RefSeq 提供、2008年7月].触媒活性: ATP + [受容体タンパク質] = ADP + [受容体タンパク質] リン酸補因子: マグネシウムまたはマンガン,疾患: TGFBR2 の欠陥は食道癌の原因となる [MIM:133239].,疾患: TGFBR2 の欠陥は家族性胸部大動脈瘤 3 型 (AAT3) の原因となる [MIM:610380].大動脈瘤および大動脈解離は、通常、大動脈壁の変性変化によって引き起こされます。

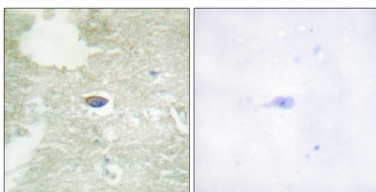
研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein; サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;エンドサイトーシス;TGF-beta;Adherens_Junction;がんにおける経路;結腸直腸がん;膵臓がん;慢性骨髄性白血病;

画像データ



TGFβ 受容体 II (リン酸化 Ser225/250) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



TGFβ 受容体 II (リン酸化 Ser225/250) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。